

においても深く心配被致様子、訊問として、今朝拙者被差越候、定て順快には有之べく候へども、様子如何に候哉、亞人、態々御尋被下難有存候、少々快候へども、未だ全快にも參兼候、此方、左候ハバ、今日上陸相成間敷、折角療養差加、早々快復被致候様存候、藥用其外手當十分にも可有之候得ども、自然藥種等差支候儀も候ハ、可被申聞候、醫師なり共差遣し可申候、亞人、御懇篤の思召難有奉存候、醫師ハ勿論藥種等、夫々船中に有之候間、先づ御斷申上候、此方、病態の訊問の驗迄に、乍輕少有合の魚類一臺、奉行差贈候間、受納可致候、亞人、段々御配慮感佩仕候、宜く申上候様、提督申聞候間、可然御報復可被下候、此方奉行にも、此程より不快に候得ども、要用之儀有之、遙々渡來に付可致面會旨、昨日申入候得ども、昨夜より別て病體不出來に候間、今日の面會相斷得と療養を加へ、提督にも夫々手當全快の上、猶折合他日面會可致候、略下

〔嘉永明治年間録九〕萬延元年三月四日、幕府使ヲ以テ井伊掃部頭ノ病ヲ問フ、

井伊掃部頭へ人參十五匁、右ハ痛所爲御尋、上使を以て被遣之、

〔今昔物語二十四〕大江匡衡妻赤染讀和歌語第五十一

今昔、大江匡衡ガ妻ハ、赤染ノ時望ト云ケル人ノ娘也、其ノ腹ニ舉周ヲバ産マセタル也、其ノ舉周勢長シテ文章ノ道ニ止事无カリケレバ、公ニ仕リテ遂ニ和泉守ニ成ニケリ、其國ニ下ケルニ、母ノ赤染ヲモ具シテ行タリケルニ、舉周不思議身ニ病ヲ受テ、日來煩ケルニ、重ク成ニケレバ、母ノ赤染歎キ悲テ思ヒ遣ル方无カリケレバ、住吉明神ニ御幣ヲ令奉テ舉周ガ病ヲ祈ケルニ、其ノ御幣ノ串ニ書付テ奉タリケル、

カハラムトヲモフ命ハヲシカラデサテモワカレンホドゾカナシキト、其ノ夜遂ニ愈ニケリ、

〔台記〕康治三年五月九日己未、召阿闍梨隆賢爲愈、少納言通憲疾、令修千手供、於本房修之是且爲易筮師、